

山浦瑛子先生定年退職にあたって

学長 木 暮 至

山浦瑛子先生は、昭和38年3月、本学経済学部を卒業され、3年余の旺文社勤務を経験された後に、拓殖大学大学院商学研究科（修士課程）と経済学研究科に進学されました。この間、昭和44年4月に本学の助手に採用され、この平成18年3月31日をもちまして高崎経済大学経済学部をご定年になり、ご退職なされることになりました。在職年数は実に37年間という長きに亘り、真摯な態度で研究と教育に、そして本学の発展のために多大なるご尽力とご貢献をなされてこられました。先生、ほんとうに長い間ありがとうございました。

先生は、『入門原価計算』（昭和63年）、『財務会計概論』（平成元年）、『実務にすぐ役立つ財務管理』（平成5年）、『原価計算論』（平成8年）、『フランス会計論』（平成9年）、『現代財務会計論』（平成13年）、『変革期の財務会計論』（平成15年）、『資本の会計』（平成15年）など、単著を矢継ぎ早に出版されただけでなく、その他多くの共著と年に数本の学術論文を発表されてこられたのです。特に、博士論文「フランス会計学研究—会計と経済の接点をジャン・フーラスティエ思考（会計思考・経済思考・社会思考）に探る」は、学会でも高い評価を受けており、先生が情熱をもって、ほぼ一貫して専念されてこられた「フランス会計学研究」は、広く国際社会においてもその業績が高く評価されているところであります。

このように真の研究者としての孤高を持ち続けられた先生は、真摯な飽くなき学問研究への態度を示す反面で、同姓の女性から見ても、思わず「山浦先生、ステキ！」とため息が漏れるほどの気品の高さと高貴さを醸し出している先生でもいらっしゃる。そして、国内はもとより多くの留学生たちが、学部で、大学院で、先生の教えを乞おうと毎年押しかけているのも見慣れた光景であります。研究に教育に、特に後輩としての学生を慈しみ、飽くなき情熱を捧げられた先生、またひとり、本学の名物教授が去って行く・・・そんな感傷に浸らざるをえないのです。

先生は、税理士や宅建の資格をお持ちであるほか、不動産鑑定士試験第2次試験委員もなさっており、多くの経験を活かして多方面で活躍されてこられました。大学行政においても、就職委員長や経営学科長として、また経済学部長

の要職も歴任され、特に、大学院経済・経営研究科長としての2期は、単なる4年間ではなく、その設置のための準備から始まって、立ち上げと軌道に乗せるまでの激動の5年間でありました。先生のご努力がなければ経済・経営研究科の設置は不可能であったと言っても決して過言ではありません。

地域貢献につきましても、先生は中小企業団体中央会の活路開拓事業や企業の社会貢献活動に関する委員、まちうち再生総合支援事業、中小企業活性化推進委員会、商店街競争力強化委員会等々、多くの委員を歴任するなど、大学と地域の発展に多大な貢献をなされてきたのです。

山浦先生、長い間、ほんとうにご苦労様でした。これからも私たちにとって身近な相談者としてご教示願えれば幸いです。どうぞ宜しくお願い申し上げますと共に、先生のこれからの益々のご健勝とご発展を心から祈念いたします。長い間、ほんとうにありがとうございました。